

# <逸ノ城> 部屋のおかみさんは医師 躍進支え、マッサージも

毎日新聞 10月28日(火)11時33分配信

ツイート 82

おすすめ 91



11月9日に初日を迎える大相撲九州場所で、ひときわ注目されるのがモンゴル出身の逸ノ城だ。新入幕だった9月の秋場所では白鵬と優勝争いをして13勝。新入幕翌場所の新関脇昇進は100年の歴史の中で初めてだ。角界に衝撃を与えた快進撃の裏に「日本の母」「おかみさん」「ドクター」の一人三役をこなす「できる女性」の存在があった。【岩壁峻、大村健一】

まげをつけた新関脇・逸ノ城（右）と、しご名が載った新番付を手にする湊部屋のおかみさんの三浦真さん＝福岡県古賀市の湊部屋宿舎で27日、大村健一撮影

【ようやくお相撲さん】逸ノ城、初めてのまげ姿をアップで（動画あり）

27日の新番付発表。逸ノ城が所属する福岡県古賀市の湊部屋九州場所宿舎に、記者会見としては異例の報道陣50人が詰めかけた。192センチ、199キロの大きな体で相手を投げ飛ばし「怪物」とはやされる21歳。初めてちょんまげを結び、まぶしいフラッシュの中で「今年の九州は丸刈りだったのに、これだけ成績を残せるとは思っていなかった」と照れくさそうに笑った。

「番付が上がって不安でしょうけど、彼は前しか向いていないんだと思う」。2人の子どもがいる湊部屋おかみさん、三浦真（まこと）さん（43）は、我が子を見るような優しいまなざしでしみじみと話す。

土俵上でいかつい顔で相手を倒す逸ノ城の取組に「もし違う部屋の間人だったら『何てふてぶてしい。憎らしいわ』と思うくらい」と冗談っぽく笑いながら、「普通の男の子ですよ。私と2人で漫才みたいなやりとりで笑いあったり」とギャップを披露する。

10月の秋巡業は、各会場でファンが逸ノ城のサインを求めてごった返した。その姿を見た日本相撲協会の尾車巡業部長（元大関・琴風）は「夏巡業とまるで違う。宝だよ」と期待をかけた。だが帯状疱疹（ほうしん）で、秋巡業後半を休んで入院。診断書を書いたのは「医師三浦真」だ。

三浦さんは埼玉医大大学院に在学中、病院に力士の見舞いに来た湊親方（元前頭・湊富士）と出会い、2001年に結婚した。現在は埼玉県川口市にある老人ホーム併設のクリニック院長として内科を担当しながら、おかみさん業に励む。力士の体のケアは、知人の医師の指示を仰ぎつつこなし、逸ノ城を強引につかまえてマッサージしたことも。秋巡業休場については「葛藤があったが、この先の本場所を考えれば出せなかった」と振り返る。

巨体が武器になってきたが、太りすぎはけがのもと。だが「部屋でのイチ君は甘いものが大好き」だ。秋場所中、両国国技館へ送迎していた三浦さんが、出発時間を尋ねようと個室の扉を開けると、モナカアイスをお口に「怪物」を発見。「『何やってるの!』って注意したら、『見つかった』という顔をしていました」と笑う。逸ノ城の母親と三浦さんは同じ年ごろ。まさに母親と息子のようなやりとりが日々展開されている。

弟子6人の湊部屋。今年1月デビューの逸ノ城が、部屋頭になった。急成長する弟子に、おかみさんとしてあえて厳しく接することがある。兄弟子に横柄な態度を取らない、ファンを邪険にしない、の2点を厳守させ、注意は必ず日本語で復唱させる。

「他の力士なら『今は見逃しておこうかな』と思うことも、彼の場合は大問題に発展するかもしれないから」。逸ノ城を支える一人三役の三浦さんは、いっそう気を引き締めている。